

## 鶴見大と總持寺、育成事業

横浜市鶴見区の曹洞宗

大本山總持寺で18日、修行僧を対象とする「臨床宗教師育成事業」研修が最終日を迎え、25人に修了証が授与された。

この日の研修は「ロール・プレイ」。檀家が住職に墓の処分の相談をするという設定で、聞き手役の修行僧と相談役の講師の会話を観察した。初めての内容で少しきこちなさもあったが、2人の話の内容や感情の流れを確認して、相談者から信頼を引き出すために必要なことを学んだ。

研修終了後、前田伸子・鶴見大副学長から修行僧代表に修了証が授与された。今後、希望者を対

象に2月まで3回の特別演習も予定している。修行の合間の研修となるため、毎回の出席は難しいが、熱心に取り組もうとする姿勢が見られた。

同事業は、鶴見大先制医療研究センターの主催で今春から始まった。病院等の実習の現場が確保できていないため、「基礎課程」として実施。コミュニケーション能力向

上を目的とし、自己の理解を深め、傾聴に求められる態度を身に付ける。

高屋継仁・總持寺維那補は「これで全てが分かるわけではなく、あくまで初期段階。まだ花を咲かせ実をつけるころまで至らないが、今回の研修という種が根を張っていきなす」と、修了者の今後を期待を寄せた。(佐藤慎太郎)